職業実践専門課程等の基本情報について

東京社社等円分数	学校名		設	置認可年月	日	校長名			所在地		
接近	東京福祉専門	学校	平	成1年2月2	08 /	小林 和弘		134-0088 東京都江戸川区西葛	5 両5−10−32		
学校法人選挙が応。											
### 2015	設直者名		設.	立認可年月	1 1	代表者名	=	134-0084	<u> </u>		
分野 総定経費名 日本	学校法人滋慶	学園	昭和	口58年12月	23日 汽	孚舟 邦彦	(住所)	東京都江戸川区東葛	葛西6丁目16番2号		
数数・2 (分野		認定課程名	ž	認定学	科名			高度専門士認定	年度 職業	実践専門課程認定年度
おおり目標である。									-		
おおり目標である。					I .		II.			<u> </u>	
事業の主人主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主	学科の目的	児童福祉	•幼児教育理	現場におい	て、多様な子ども・	家庭に合わせ	た支援や指導	ができる保育士・幼稚	園教諭になる。		
事業の主人主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主人の主											
# 等) 200年度の中国地球社会中を認知は大い19名中4名)。 修業年限 差較 全球の東で、1987年の経費を収入が増加している。 2					景修!	まに 保育 十姿성	な取得する				
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本							164/10/00				
2 日間	修業年限	尽态	全課程の			は総 ■	# 恙	油型	宝翌	宝騇	宝坩
全様形定員	沙木干成	型仪		単位							
年度教育人 生態発展(A) 関学生数(### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	2	昼間		、単位いずれ					+		
160 人	— 年		75 T-1107 C		69 単位	3	6 単位	45 単位	8 単位	0 単位	5 単位
	生徒総定員	生徒到	実員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数)(E	留学生	割合(B/A)				
	160 人	112	2 人		0 人		0 %				
製技術表表() : 52 人 145		■卒業者	数 (C)	:			人				
# 通行政策者数(F) 45 人 ■ 通び職事を(F) 100 96 ■ 近成事を(F) 96 ■ 東東市にある地政場の影響 (F/E) 87 96 ■ 東東市にあるが限力機能の影響 (F/E) 95 96 ■ 古夕音数 0 人 人 名・設議権望なし (今日 5 年校を変がに関する今和年5月1日時点の存储) ■ 主な対域化・業 業等 (存用) 効料機 福祉 施設 等 ■ 国際の資産・個人は以下について信息記載		■就職希	望者数(D				<u> </u>				
		■地元就	職者数(F								
■ 本業市に占める政和者の割合 (E/C) 95 96 ■ 連子者放 ■ で表面数 0 人 ■ で表面数 0 人 ■ で表面数 0 人 ■ である数 0 人 ■ である 0 人 ■ 1 大 1 人 ■ 1 大 1 人 ■ 1 大 1 人 ■ 1 大 1 人 ■ 1 大 1 人 ■ 1 大 1 人 ■ 1 大 1 人 ■ 1 人 ■ 1 大 1 人 ■ 2 人 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 ト ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 中 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 ト ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 ト ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 ト ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 ト ■ 1 人 ■ 1 人 ■ 2 人 ■ 2 ト ■ 1 人						0	%				
25 % 6					87	1	%				
● 正学学者 0 人		■卒業者	に占める就	職者の割合			06				
3名・武職 希望なし (今和 5 年度を来名): 助する今和6年5月1日時点の情報) ■主な政策先、業界等 (今和5 4 年度を来名): 助する今和6年5月1日時点の情報) ■主な政策先、業界等 (今和5 5 年度を来名): 助する今和6年5月1日時点の情報) 第三者による (本日本の学典の表現を建立) (本日本の学典の表現を建立) (本日本の学典の表現を建立) (本日本の学典の表現を建立した実験・実置・実技の授業時数 単位時間 「ち企業等と連携した。 「おんり」 「に記入」 「に記入」 「に記入」 「に記入」 「記入」 「記入」 「記入」 「記入」 「記入」 「記入」 「記入」 「	計職生の仕口						人				
(今和 5 年校主義に関する合称4年5月1日時点の信仰) ■主な規則、集界等 (合和金属文集生) 保育所、幼稚園、福祉施設 等 第三者による 学校評価 単位の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例は以下について任意記載 評価団体: 受害年月: 肝価証券を掲載した 小一ムページ https://www.tow.ac.jp/ (A:単位時間による算定) 接接事情を 単位時間 単位時間 単位時間	赤帆寺の水池	■その他	!								
■主な設備先、東月等 (令和坊東原東生) (奈育所、分類機器、福祉施設 等 (李和月 : 無		3名:就職	は希望なし								
東立とは関係、東井等											
(令前の手乗を乗金) (保育所、幼稚園、福祉施設 等 第三者による 学校評価 新伯用作: 文字中月: 評価結果を代報した ホームページ 中位用作: 文字中月: 評価結果を代報した ホームページURL Althory					に関する令和6年5	5月1日時点の1	青報)				
東三者による 東西の四部価関係から第三者評価: 無				L-43							
第二者による 字校評価 当数学科の ホームページ URL (A:単位外間による算定) 配授業特数				祉施設 等	F						
第二者による 字校評価 当数学科の ホームページ URL (A:単位外間による算定) 配授業特数		■民間の	·言亚/莱 ±総月月	生から等に	*老部体。			4m			
学校評価 当該学科の	第三者による							m.			
### ### ### ### #####################			評価団体:			亚零年日					
https://www.tow.ac.jp/URL			肝脚凹肿.			又番牛月		本	ームページURL		
URL (A:単位時間による算定) 総授業時数 単位時間 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位時間 うち企業等と連携した姿態の実験・実習・実技の授業時数 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位時間 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数) 総授業時数 (B:単位数による算定) 総授業時数 (B:単位数による第定) 総授業時数 (方ち企業等と連携した必修の演習の授業時数 の単位 うち企業等と連携した変弱の授業時数 の単位 うち企業等と連携した変弱の授業時数 の単位 うち企業等と連携した変弱の授業時数 の単位 うち企業等と連携した変弱の授業時数 の単位 うち企業等と連携した変弱の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 の単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 の単位 うち企業等と連携したが関係は関連を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を		 //	/ .	! . /							
総授業時数 単位時間		nittps.//	www.tcw	.ac.jp/							
総授業時数 単位時間		(A:単位	立時間による	る算定)							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位時間 (うち企業等と連携したがの演習の授業時数										単位問	持間
□ 5 あ 必				うち企業等	まと連携した実験・	実習・実技の	授業時数				
□ うち企業等と連携した 東部等の実施状況 (A、 Bいずれか に記入) (B:単位数による算定) 総授業時数 (B:単位数による算定) 総授業時数 (B:単位数による第定) 総授業時数 (B:単位数による第定) (B:単位数による第一次 (B:単位数による第一次 (B:単位数による第一次 (B:単位数による第一次 (B:単位数によるを)を) (B:単位数による第一次 (B:単位数による)を) (B:単位を)				うち企業等	手と連携した演習 <i>の</i>	D授業時数				単位問	持間
② 学士の学位を有する者等 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) ② 高等学校教諭等経験者 ② 学士の学位とは専門職学位 ② テの他 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) ② その他 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) ② その中位又は専門職学位 ② その中位又は専門職学位 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) ② 人				うち必修技	受業時数						
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入) (B:単位数による算定) 総授業時数 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 の単位 うち企業等と連携したインターンシップの授業時数 の単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) ② 単位 (うち企業等と連携したが多の演習の授業時数) ② 単位 (うち企業等と連携したが多の演習の授業時数) ② 単位 (うち企業等と連携したが多の演習の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の演奏・実習・実施の授業時数) (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 3 人 (3 高等学校教諭等経験者 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 3 人 (6) その他 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 3 人					うち企業等と連携	もした必修の実	験・実習・実	技の授業時数		単位問	持間
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入) (B:単位数による算定) 総授業時数 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数 の単位 うち企業等と連携したインターンシップの授業時数 の単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) ② 単位 (うち企業等と連携したが多の演習の授業時数) ② 単位 (うち企業等と連携したが多の演習の授業時数) ② 単位 (うち企業等と連携したが多の演習の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の実験・実習・実技の授業時数) 3 単位 (うち企業等と連携したが多の演奏・実習・実施の授業時数) (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 3 人 (3 高等学校教諭等経験者 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 3 人 (6) その他 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 3 人					うち企業等と連携	もした必修の演	習の授業時数			単位問	間
(日 : 単位数による算定) 日 : 単位数による算定 日 : 単位数に表する主護した実験・実習・実技の授業時数 日 : 単位数に表する主護した必修の実験・実習・実技の授業時数 日 : 単位数に表する主護した必修の実験・実習・実技の授業時数 日 : 単位数による企業等と連携した必修の演習の授業時数 日 : 単位数による企業等と連携した必修の演習の授業時数 日 : 単位数による企業等と連携したインターンシップの授業時数 日 : 単位数による企業等と連携したインターンシップの授業時数 日 : 単位数による企業を連携したインターンシップの授業時数 日 : 単位数による企業を連携したであって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算 日 : 「事修学校設置基準第41条第1項第1号 日 : 「事修学校設置基準第41条第1項第2号 日 : 「事修学校設置基準第41条第1項第3号 日 : 「事修学校验置基準第41条第1項第3号 日 : 「事修学校验证基準2号 日 : 「事修学校验证基準2号 日 : 「事修学校验证基準2号 日 : 「事修学校验证表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述	へ 業年 L 市推 L +-			(うち企業	┗ 笑等と連携したイン	ノターンシップ	の授業時数)				
(B:単位数による算定) お投業時数 69単位 55企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 0単位 うち企業等と連携した演習の授業時数 69単位 うち必修授業時数 69単位 うち必修授業時数 69単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 8単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 0単位 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 0単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数 8単位 1 事修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した規間とを通算 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 2 人 で不の担当する教育等に従事した規間とを通算 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 3 人 3 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 4 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 3 人 6 をの他 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 3 人 5 その他 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 0 人 1 を修工の学位又は専門職学位 1 年修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 年											
総授業時数 69 単位 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 8 単位 うち企業等と連携した演習の授業時数 69 単位 うち企業等と連携した液習の授業時数 69 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 0 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 0 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数 0 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数 2 単位 ((A、Bいずれか		立数による質	算定)							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 8 単位 うち企業等と連携した演習の授業時数 69 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 8 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 0 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 0 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 8 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 2 人 でその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該検業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 3 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 3 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人	に記入)	l								69 単位	
うち企業等と連携した演習の授業時数				うち企業等	まと連携した実験・	実習・実技の	授業時数				-
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数										0 単位	-
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				うち必修技	受業時数					69 単位	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						もした必修の実	験・実習・実	技の授業時数			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 8 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 8 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 8 単位 (事修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した規間とを通算して六年以上となる者 (事修学校設置基準第41条第1項第2号) 3 人 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 3 人 (事修学校設置基準第41条第1項第4号) 3 人 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人											
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等				(うち企業							
大会の風性(専任教員) (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 大会の風性(専任教員) (専修学校設置基準第41条第1項第2号) (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 3人 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 0人 (事修学校設置基準第41条第1項第4号) 3人 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 0人 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 0人											
大会の風性(専任教員) (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 大会の風性(専任教員) (専修学校設置基準第41条第1項第2号) (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 3人 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 0人 (事修学校設置基準第41条第1項第4号) 3人 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 0人 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 0人											
門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人											
教員の属性 (専任教員について記入) (事修学校設置基準第41条第1項第2号) 3人 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 0人 (事修学校設置基準第41条第1項第3号) 0人 (事修学校設置基準第41条第1項第4号) 3人 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 0人			門課程の修	多業年限と当	á該業務に従事した			校設置基準第41条第1項	(第1号)	2 人	
教員の属性 (専任教員について記											
教員の属性 (専任教員でついて記教員について記入) 3 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 3 人 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人			② 学士4	り学位を有っ	よ者等		(事格学	校設置其准筆Δ1冬第17頁	i 筆2号)	2 I	
教員について記入) ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 3 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人	****										<u> </u>
(4) 修士の字位又は専門職字位 (専修子校設置基準第41条第1項第5号) 3 人 (5) その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人											
					早門職学位						
計 8人			(5) 7 OH	也			(専修学	校設置基準第41条第1項	[第5号)	0 人	
			@ C 07 II								
										8 人	
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度										8 人	
の実務の能力を有する者を想定)の数			āt	うのうち、 写	ミ務家教員(分野に	こおけるおおむ	ね5年以上 <i>の</i>	実務の経験を有し、カ	いつ、高度		
			計			こおけるおおむ	ね5年以上の	実務の経験を有し、カ	いつ、高度	8 人	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携については、「児童福祉・幼児教育現場において、多様な子ども・家庭に合わせた支援や指導ができる保育士・幼稚園教諭になる」という養成目的を踏まえて、企業等と直接に連携する科目についてはより良い内容となるように意見交換をする。また、企業等から業界の要望を聴取し、業界が求める人材を育成する視点に基づいてカリキュラムの内容見直しに反映させる。

- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され、理事及び学校長、教務部長、学部長と業界代表によって構成され、学校が編成した教育課程を、業界代表者からの意見や提案を活かせるようにする。委員会は改善意見を学校長に報告し、学校長は報告を活かした教育課程を決定し、委員会へ告知する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
浅村 都子	臨床育児·保育研究会 委員 練馬区立豊玉保育園	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	1
山本 育子	社会福祉法人こばと 理事長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	3
上野 小夜子	社会福祉法人聖華 町屋保育園 園長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	3
花村 嘉信	株式会社NOTCH 代表取締役 保育士BOOKキャリアアドバイザー	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	2
小林 和弘	東京福祉専門学校学校長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	
白井 孝子	東京福祉専門学校 副校長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	
松川 勝吉	東京福祉専門学校事務局長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	
菊池 紀子	東京福祉専門学校教務部長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	
水谷恵理子	東京福祉専門学校 こども保育科学科長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年6月2日(金) 14:00~16:00 第2回 令和5年10月13日(金) 14:00~16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員の方からも賛同をいただいていた「実習日誌のweb化」について、企業との連携強化および教育内容の充実を図ることを目的として「保育実習 I 」「保育実習 II 」「保育実習Ⅲ」にて2024年度より導入を図る。また離職防止のための卒後支援については、継続して議論を行っていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

LT2(Look➡Try➡Listen➡Think)教育システムは、「実学教育」を建学の理念に掲げる本校が、卒業後の仕事で本当に役立つ人材養成のために見つけた「学習動機付け」と「自立学習」にポイントを置いた本校独自の教育の方法論である。企業等における実習はLT2のLookとTryに該当し、最も効果のある「学習動機付け」と認識し、現場実践を通じて保育士・幼稚園教諭として求められる力を身に着けるため、企業等との連携の下での現場実習は不可欠との方針のもと取り組む。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習前は担当教員と実習指導者が学生情報や実習内容について情報共有を行う。実習期間中は担当教員が実習先を訪問し、指導者と共に実習内容、学生の学修成果の到達度の中間確認を行う。実習終了時には、実習指導者による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等
保育実習 I (保育所)	子どもとの関わりや観察を通して子どもへの理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。	たんぽぽ保育園、宮前平もりのこ保育園、 みづえ保育園、西葛西おひさま保育園 な ど 計51企業
保育実習 I (施設)	児童福祉施設及び社会福祉施設の機能と保育士の職務 について学ぶ。	大田区立コスモス苑、江戸川区立みんなの家、水元そよかぜ園、サーフサイドセヴン茅ヶ崎ファーム、松戸市こども発達支援センター、品川区立かがやき園、日本赤十字社医療センター付属乳児院等計
保育実習 II	子どもとの関わりや観察を通して子どもへの理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。	たんぽぽ保育園、宮前平もりのこ保育園、 みづえ保育園、西葛西おひさま保育園 な ど 計51企業
保育実習Ⅲ	居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。	江戸川区立福祉作業所、児童養護施設ほうゆう・キッズホーム、ケアセンターつばきえぽっく、千葉市大宮学園たけのこルーム、星美ホーム 等 計29施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員研修規定により、授業内容・教育技法の改善、またクラス運営・マネジメントカを含んだ指導力の向上が、授業力の向 上につながる研修を行うことを目的とする。さらに協会、職能団体が主催する研修や学会などの研修にも参加を促している。

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校法人滋慶学園教員研修規定により、研修の目的及び対象、学校及び教員の責務が定められている。規定第3条にお いて、それぞれの対象に応じた到達目標、研修方法並びに評価指標を定めて実施することを定めている。また、専攻分野に おける実務に関する研修も、他の機関と共同または委託し研修をおこなうことができることを定めており、養成課程に関わる 協会・団体が主催する研修・研究発表会に参加するようにしている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 実習指導者認定講習 連携企業等: 一般社団法人 全国保育士養成協議会

令和5年3月22日(木)~3月23日(金) 期間: 対象: 専任教員(実習指導者)

テーマ「保育実習の意義・目的、保育実習の指導・評価、実習施設との連携・協働」 内容

②指導力の修得・向上のための研修等

教職員カウンセリング研修2次研修 連携企業等:滋慶教育科学研究所 研修名:

期間: 2023年9月26日(火) 対象: 専任教員

専門学校教育の向上を目指した授業力向上や学生指導に不可欠なカウンセリングについて学ぶ。 内容

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

連携企業等:全国保育士協議会会員 研修名: 令和6年度全国保育士養成セミナー

期間: 2024年8月29日(木)・30日(金) 対象: 専任教員

テーマ「岐路に立つ保育士養成ー近未来の保育と養成校の姿を考える」 内容

②指導力の修得・向上のための研修等

FDミクロレベル〈クラスマネジメント〉研修Ⅱ 連携企業等: 滋慶教育科学研究所 研修名:

期間: 2024年7月24日(水)・25日(木) 対象: 専任教員

内容 クラスマネジメントのポイントを理解し、学生のセーフティーネットの運用のための実行計画について学ぶ。

連携企業等: 滋慶教育科学研究所 研修名: 国家試験対策研修会

期間: 2024年6月4日(火) 対象: 専任教員

内容 学習者中心の個別最適化した国家試験対策の立案と実行について学ぶ。

研修名: カウンセリング研修(1次)(2次) 連携企業等: 滋慶教育科学研究所

(1次)2024年7月1日(月)~8月31日(土)で任意受講 期間: 対象: 専任教員 (2次)2024年7月31日(水)

専門学校教育の向上を目指した授業力向上や学生指導に不可欠なカウンセリングについて学ぶ。 内容

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営の理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とし、自己点検・評価の結果は学校法人滋慶学園情報公開規定に基づき学校内外に開示するものとする。また、いただいた意見については、学校の意思決定機関である運営会議で討議され、どのように学校内の仕組みとして導入するかを決定していく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	運営方針・事業計画・運営組織・人事・給与制度・意思決定システム
(3)教育活動	目標設定・教育方法・評価等・成績評価・単位認定など・資格・免許取
(4)学修成果	就職率・資格・免許の取得率・卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路・中途退学への対応・学生相談・学生生活・保護者との連
(6)教育環境	施設・設備等・学外実習・インターンシップ等・防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動·入学選考·学納金
(8)財務	財務基盤・予算・収支計画・監査・財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準等の遵守・個人情報保護・学校評価・教育情報の
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献・ボランティア活動
(11)国際交流	国際交流

^{※(10)}及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

評価結果は翌年度における重点課題への反映及び、自己点検・自己評価の各評価項目における到達目標設定に活用する。また委員からいただいた詳細な意見については、学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、具体的な取り組みに落とし込んでいく。

ITC教育や合理的配慮が必要な学生への対応等については社会背景の要請に適応する形で取り組み、前者においては日々の授業だけでなく現場実習などへの導入、また後者については入学前の対応を含めた保護者との連携や学園法務部門との連携強化、また職員に向けた研修実施を行っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
西田 憲司	社会福祉法人協和会 特別養護老人ホームきく 事務長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	本校卒業生
髙部 英彦	私立正則学園高等学校事務局長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	高等学校教員
赤羽根 智英子	清新町都営住宅くすのきクラブ連合会 会長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	地域関係者
池田めぐみ	社会福祉法人東京栄和会 特別養護老人ホームなぎさ和楽苑 苑長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	介護分野 企業等委員
皆川 隆太	就労移行支援事業所natura 施設長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	社会福祉分野 企業等委員
若松 弘樹	児童養護施設 聖友学園 施設長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	保育分野 企業等委員
中里 武史	東京都作業療法士会 事務局長	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	作業療法分野 企業等委員
澳津 優子	こども保育科2年 保護者	令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	在校生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5<u>)学校関係者</u>評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: https://www.tcw.ac.jp/disclosure-of-information/school-information

公表時期: 令和6年6月30日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校教育法に基づき、学生、保護者、福祉業界関係者など、学校と関係者の理解を深め、連携・協力すると共に教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。また、専門学校は、実践的な職業教育における成果に加え、社会的要請に対応する役割を担っており、その理解・評価を促進し、学習者の適切な学習機会選択に資するためにも、その教育活動等の状況については、広く周知を図る。

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の沿革 ・学校長挨拶 ・教育システム・建学の理念 ・3つのポリシー
(2)各学科等の教育	・設置学科(修業年限、入学定員) ・教育目標 ・シラバス ・実務経験のある教員による授業科目一覧
(3)教職員	·教職員数 ·理事(役員)名簿
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育の取り組み ・現場体験について
(5)様々な教育活動・教育環境	・年間イベント・教育環境
(6)学生の生活支援	・学生相談室・学生サービスセンター・留学生支援
(7)学生納付金・修学支援	・授業及び他経費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・監査報告書・財務諸表(収支計算書、財産目録、賃借対照表)・事業報告書
(9)学校評価	·自己点検·自己評価 ·学校関係者評価委員会議事録 ·評価結果
(10)国際連携の状況	•海外研修
(11)その他	・その他の学校の取り組み ・高等教育の就学支援制度について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) · 広報誌等の刊行物 · その他())

URL: https://www.tcw.ac.jp/disclosure-of-information/school-information

	(社会福祉専門課程こども保育科) 2024年度															
		分類	į			= 7	140		授	業	<u>方法</u>	場	所	教	員	_
		択必	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演習	実験・実習・実技		校 外			企業等との連携
1	0			情報機器入門	保育・幼児教育において必要なITリテラシーやOSなどの基本操作・ ICT活用のための知識・スキルを学ぶ。	1年前期	15	1	0			0			0	
2	0			文章表現	保育現場で必要とされる文章表現を学び、確かな国語力を身につけるとともに、社会人としての教養を伸ばす。	1年前期	15	1	0			0		0		
3	0			キャリア教育プログラム I	保育士を目指す学生一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。	1 年 通 年	60	2		0		0		0		
4	0			健康スポーツI	運動がこどもに与える影響や意義を理解し、説明ができるようになる。	1年前期	30	1			0	0		0		
5	0			健康スポーツⅡ	こどもと一緒にできる運動やルールのある遊びを、保育者の配慮も 踏まえて企画立案できるようになる。	1年前期	15	1	0			0		0		
6	0			英会話	国際教育の理念に基づき、簡単な英語遊びを園児たちとできるよう になる。	1年通年	60	2		0		0		0		
7	0			保育原理	保育の意義について理解する。保育の内容と方法の基本について 理解する。	1年前期	30	2	0			0			0	
8	0			教育原理	教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて学び、教育制度の変遷を記述できるようになる。	1 年後期	30	2	0			0			0	
9	0			社会的養護 I	児童福祉施設や里親制度など、児童福祉をとりまく環境やそれに伴 う養護のあり方を学ぶ。	1 年後期	30	2	0			0		0	0	
10	0			保育者論	保育者とは何かを理解する。また、保育者の役割を理解した上でその実践への展開を図る。	1 年 前 期	30	2	0			0		0		
11	0			保育の心理学	子どもの発達にかかわる心理学的基礎を学び、こどもの発達段階における心理的な成長を理解する。	1 年 前 期	30	2	0			0			0	
12	0			保育の計画と評価	保育内容に関連する保育の計画及び評価について理解し、全体的 な計画と指導計画の作成について理解する。	1 年後期	30	2	0			0			0	
13	0			保育内容総論	保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解をし、保育の多様な展開について学ぶ。	1 年後期	30	1		0		0		0		
14	0			保育内容 I	発達段階に応じた絵画造形の基礎と保育内容の方法を学び、創作 活動を適切に指導する指導力と場面に応じて行える技術を身に付け る。	1年前期	60	2		0		0		0		
15	0			保育内容Ⅱ	発達段階に応じた絵画造形の基礎と保育内容の方法を学び、創作活動を適切に指導する指導力と場面に応じて行える技術を身に付ける。	1 年後期	90	3		0		0		0		
16	0			保育内容の理解 と方法(造形)	子どもの発達と造形表現に関する知識と技術を習得し、教材等の活 用や作成、保育環境構成を学ぶ。	1 年前期	30	1		0		0			0	

	(社会福祉専門課程こども保育科) 2024年度 分類															
		分類				配	授		授	業業プロ	<u>方法</u> 実	場	肵	教	頁	企
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	当年次・学	業時	単位数	講義	演習	験 実 習 •		校外			業等との連
						期	数				実技					携
17	0			保育実習 I (保育所)	子どもとの関わりや観察を通して子どもへの理解を深める。保育士 の業務内容や職業倫理について学ぶ。	1年前期	80	2			0		0		0	0
18	0			保育実習指導 I-①	保育実習の意義・目的を理解する。また実習の振り返りを通じて次 回の実習に学びをつなげる。	1 年後期	30	1		0		0		0	0	
19	0			乳児保育 I	3歳児未満児の発達・発育について学んだことを、実践的に考える。	1 年後期	30	2	0			0		0	0	
20	0			障害児保育 I	様々な障がいについて理解し、保育における発達の援助・環境構成 について学ぶ。	1年後期	30	1		0		0		0	0	
21	0			実習トレーニ ング	保育計画・指導案・実習日誌の書き方等、実習に必要な知識と技術 を学ぶ。	1年前期	15	1	0			0			0	
22	0			音楽I	音楽基礎となる楽譜、音譜、リズムを学び、主にピアノ技術を学ぶ。	1年前期	30	1			0	0		0	0	
23	0			音楽Ⅱ	音楽基礎となる楽譜、音譜、リズムを学び、主にピアノ技術を学ぶ。	1年後期	30	1			0	0		0	0	
24			0	日本国憲法	社会の最小単位の家族とそれに関する法律を理解しながら、憲法に 対する自らのリーガルマインドを養う。	1 年後期	30	2	0			0	0		0	
25			0	こども教室 I	乳児期・幼児期における発育・発達に応じた指導技術を実践する。	1年前期	90	3		0		0		0	0	
26			0	こども教室Ⅱ	乳児期・幼児期における発育・発達に応じた指導技術を実践する。	1年後期	90	3		0		0		0	0	
27			0	ノビルバA	興味あるものを選び(アートや音楽)専門的な知識、技術を学んで、 その分野の理解を深める。	1 年 通 年	30	1		0		0			0	
28			0	ノビルバB- Ι	ダンスの基礎から本格的な技術まで学び、興味を深める。その知識、技術を活用して表現の技術を向上させる。	1 年 通 年	15	1		0		0			0	
29			0	ノビルバB-Ⅱ	ダンスの基礎から本格的な技術まで学び、興味を深める。その知識、技術を活用して表現の技術を向上させる。	1 年 通 年	15	1		0		0			0	
30			0	ノビルバB-Ⅲ	ダンスの基礎から本格的な技術まで学び、興味を深める。その知識、技術を活用して表現の技術を向上させる。	1 年 通 年	30	1		0		0			0	
31	0			子どもの理解と援助	保育の実践において実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達 や学びを把握することの重要性について理解する。	2 年 前 期	30	1		0		0			0	
32	0			保育内容の理解 と方法(身体)	子どもの発達と身体表現に関する知識と技術を習得し、表現方法を身に付ける。	2年前期	30	1		0		0		0		

	(社会福祉専門課程こども保育科) 2024年度 分類															
		分類	į			= -	140		授	業		場	所	教	員	
		択必	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演習	実験・実習・実技		校 外			企業等との連携
33	0			保育内容の理解 と方法(音楽)	子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びへ の展開の技術を習得する。	2年前期	30	1		0		0		0		
34	0			保育内容の理解 と方法(言語)	言葉の発達を理解し、その表現方法を実践を通して学ぶ。	2 年後期	30	1		0		0			0	
35	0			キャリア教育プログラム II	保育士としてのキャリアをスタートさせるに当たってのキャリア形成と 卒業後のキャリア開発に向けての意識を育む。	2 年通年	30	1		0		0		0		
36	0			子ども家庭支援論	家庭の意義とその機能について理解し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援体制について学ぶ。	2年前期	30	2	0			0			0	
37	0			子ども家庭福祉	こども家庭福祉の意義と歴史的変遷や、現状と課題について理解する。	2年前期	30	2	0			0			0	
38	0			社会福祉	日本の社会福祉制度の中で、児童福祉がの位置づけと子どもの権利について述べることが出来る。	2 年前期	30	2	0			0			0	
39	0			子ども家庭支援の心理学	家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係 等について発達の視点から理解をする。	2年前期	30	2	0			0			0	
40	0			子どもの保健	子どもの疾病や適切な対応について理解し、緊急時の対応や安全管理について具体的に学ぶ。	2年前期	30	2	0			0			0	
41	0			子どもの食と栄養	健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎知識を 学ぶ。	2 年 通 年	60	2		0		0			0	
42	0			子どもの健康と安全	保育における衛生管理や事故防止、危機管理、災害対策などこども に対する安全管理について、理解する。	2 年前期	30	1		0		0			0	
43	0			乳児保育Ⅱ	3歳児未満児の発達・発育について学んだことを、実践的に考える。	2 年前期	30	1		0		0			0	
44	0			障害児保育Ⅱ	様々な障がいについて理解し、保育における発達の援助・環境構成 について学ぶ。	2 年後期	30	1		0		0			0	
45	0			社会的養護Ⅱ	児童養護のプログラム・処遇の実際を学ぶ。	2年前期	30	1		0		0			0	
46	0			保育実習 I (施設)	児童福祉施設及び社会福祉施設の機能と保育士の職務について学 ぶ。	2年前期	80	2			0	0	0		0	0
47	0			保育実習指導 I-②	保育実習の意義・目的を理解する。また実習の振り返りを通じて次 回の実習に学びをつなげる。	2年前期	30	1		0		0		0	0	
48	0			保育実践演習	今まで学んだ知識、技術を基に、実践を通して子どもに対する支援 方法を考える	2 年後期	30	2		0		0			0	

	(社会福祉専門課程こども保育科) 2024年度															
	•	分類							授	業	方法	場	所	教	員	
	必	選択必	自由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・	授業時	単位	講	演	実験・実習	校	校	専	兼	企業等との
	修	修	択			学期	数	数	義	習	· 実 技	内	外	任	任	携
49		0		学研保育トレーニングゼミ	学研の教材や保育方法を基に、保育に対する実践の幅を広げる。	2 年 後 期	15	1	0			0			0	
50		0		知育研究	学研の知育教材について、実際の保育・幼児教育現場での活用を 学ぶ。	2 年 後 期	15	1	0			0			0	
51	0			子育て支援	保育士の専門性を背景とし、保護者に対する相談・助言・情報提供、 行動見本の提示等の支援を理解する。	2 年前期	30	1		0		0		0	0	
52			0	選択音楽 I	保育者として必要な音楽の技術を学ぶ。	2 年 前 期	30	1			0	0		0	0	
53			0	選択音楽Ⅱ	保育者として必要な音楽の技術を学ぶ。	2 年後期	30	1			0	0		0	0	
54		0		保育実習Ⅱ	子どもとの関わりや観察を通して子どもへの理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理 について学ぶ。 <u>※「保育実習Ⅱ」選択者は、「保育実習指導Ⅱ」も履修する</u>	2年前期	80	2			0		0		0	0
55		0		保育実習Ⅲ	居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。 ※I、皿いずれかを履修。「保育実習I」選択者は、「保育実習指導II」も履修する	2年前期	80	2			0		0		0	0
56		0		保育実習指導Ⅱ	保育実習の意義・目的を理解する。また実習の振り返りを通じて今後の学びを深める。 <u>※ I、 II いずれかを履修。「保育実習指導 I 」選択者は、「保育実習 II 」も履修する</u>	2年前期	30	1		0		0		0	0	
57		0		保育実習指導Ⅲ	施設実習の意義・目的を理解する。また実習の振り返りを通じて今後の学びを深める。 ※I、皿いずれかを履修。「保育実習指導皿」選択者は、「保育実習皿」も履修する	2年前期	30	1		0		0		0	0	
58		0		愛着と自立	特に児童養護施設や乳児院の子どもやその愛着形成・自立について学ぶことで、将来保育者となった時の支援に活かす。	2 年後期	15	1	0			0			0	
59		0		赤ちゃんと保護 者の心理	既習の「乳児保育」の学びを活かして、さらに乳児と保護者の心理面 についても理解を深めるとともに、保育者としての支援を学ぶ。	2 年後期	15	1	0			0			0	
60		0		障害児の心理	既習の「障害児保育」の学びを活かし、さらに障害児の心理面の発達への理解を深め、将来保育者となった時の援助やその家庭への支援に活かす。	2 年後期	15	1	0			0		0		
61		0		こどもとおもちゃ 工作	児童文化財の保育への展開、子どもの玩具活用、製作活動の実際 について学び、将来保育現場で活用できるようになる。	2 年後期	15	1	0			0			0	
62		0		世界の子どもと 保育(国内研修)	日本人としてのアイデンテティの確立や価値観や文化の違いを尊重 する力を身につけ、将来保育現場における多文化共生保育の考え 方を育む。	2 年後期	30	1		0		0		0	0	
63		0		世界の子どもと 保育(海外研修)	日本人としてのアイデンテティの確立や価値観や文化の違いを尊重 する力を身につけ、将来保育現場における多文化共生保育の考え 方を育む。	2 年後期	30	1		0		0		0		
64			0	こども教室Ⅲ	乳児期・幼児期における発育・発達に応じた指導技術を実践する。	2 年前期	90	3		0		0		0	0	

			専門課程こど	も保育科) 2024年度											
	分類	į						授	業	方法	場	所	教	員	
					配	授	222			実					企
יני.	1 55	4			当年	業	単	講	迚	験	校	校	専	*	業等
必	選択	自由	授業科目名	授業科目概要	次	未	位	舑	演	実	仪	仪	守	兼	م
	必必	選	XXIIII	[2.4.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.	•	時	12			習					の
修	修	択			学期		数	義	習	•	内	外	任	任	連 携
					期	数				実					携
										技					
		合語	計	64	和	目				94	単	位	(単	位時	:間)
					-										

	卒業要件及び履修方法	授業期間等					
卒業要件	必須科目をすべて履修し、各科目においてD評価(60点以上)かつ授業時間数の10分の7以上の出席を要する(実習科目の出席時間数は5分の4とする)。実習以外の科目については前期、後期において各2回評価をおこなう。	1 学年の学期区分	2 期				
履修方法	必須科目をすべて履修し、各科目においてD評価(60点以上)かつ授業時間数の10分の7以上の出席を要する(実習科目の出席時間数は5分の4とする)。実習以外の科目については前期、後期において各2回評価をおこなう。	1 学期の授業期間	15 週				

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。